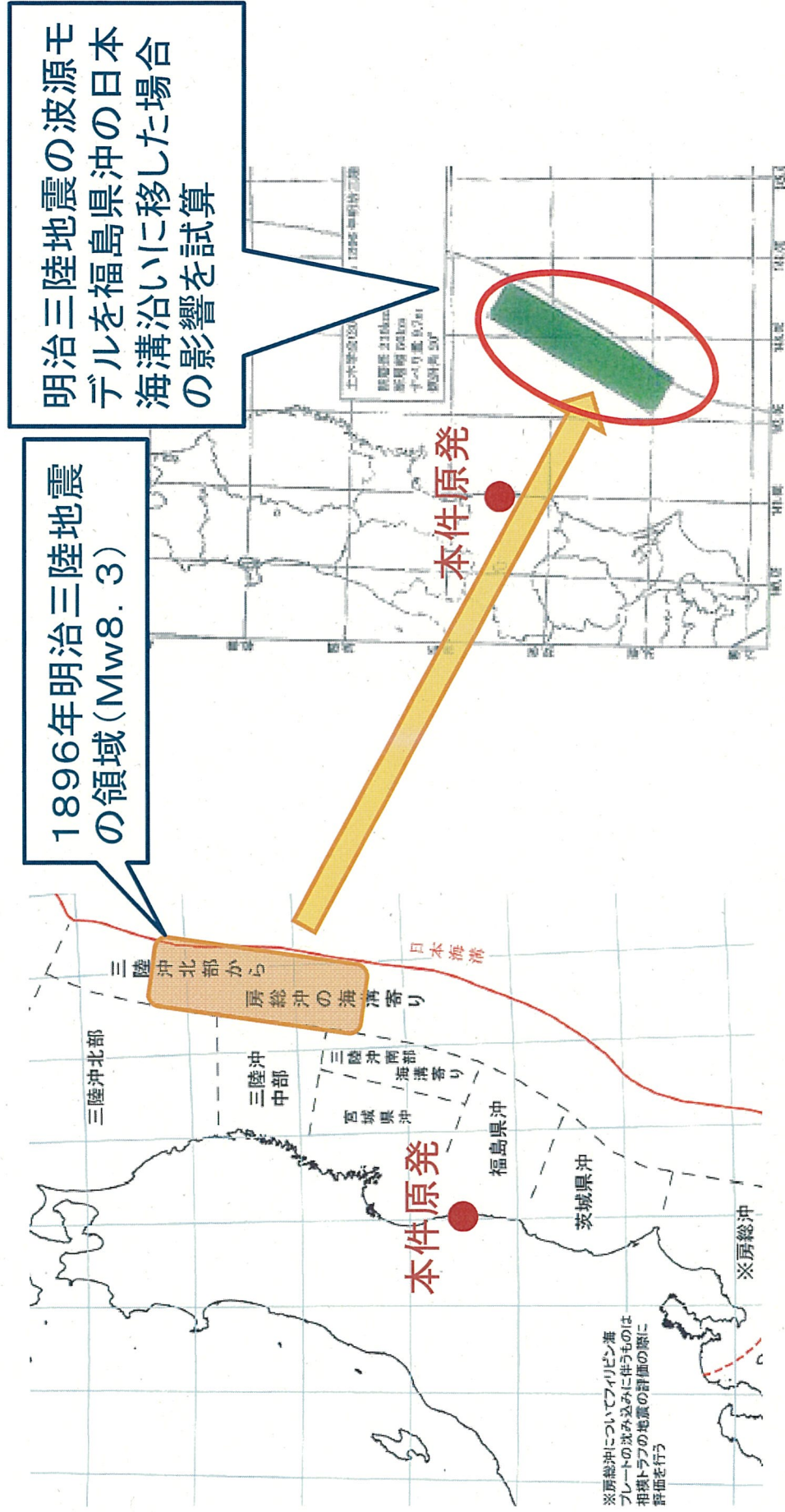


第3 争点② 「結果回避可能性の有無」について

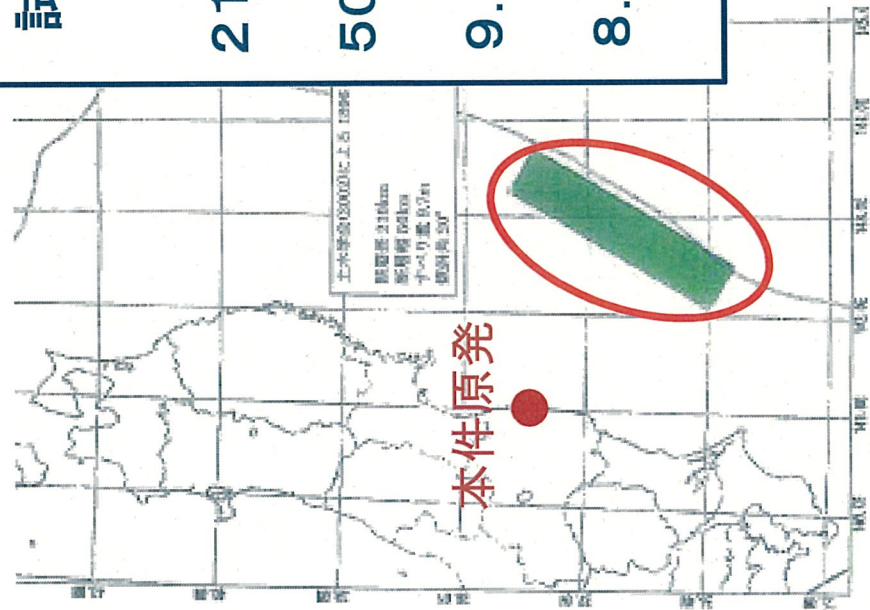
1 結果回避可能性を検討する前提

丙A第28号証・18枚目より
乙A第35号証・9ページより

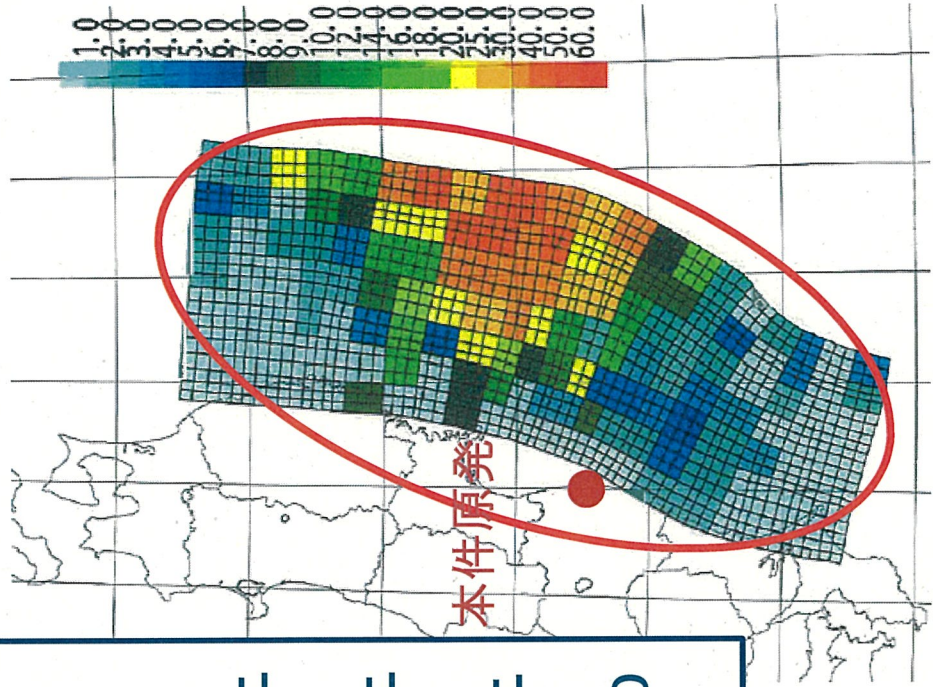
平成20年に東京電力が「長期評価の知見」を前提にした場合、
本件原発に襲来する津波の高さを試算



前提:
「長期評価の知見」による試算津波と本件津波は全く違う

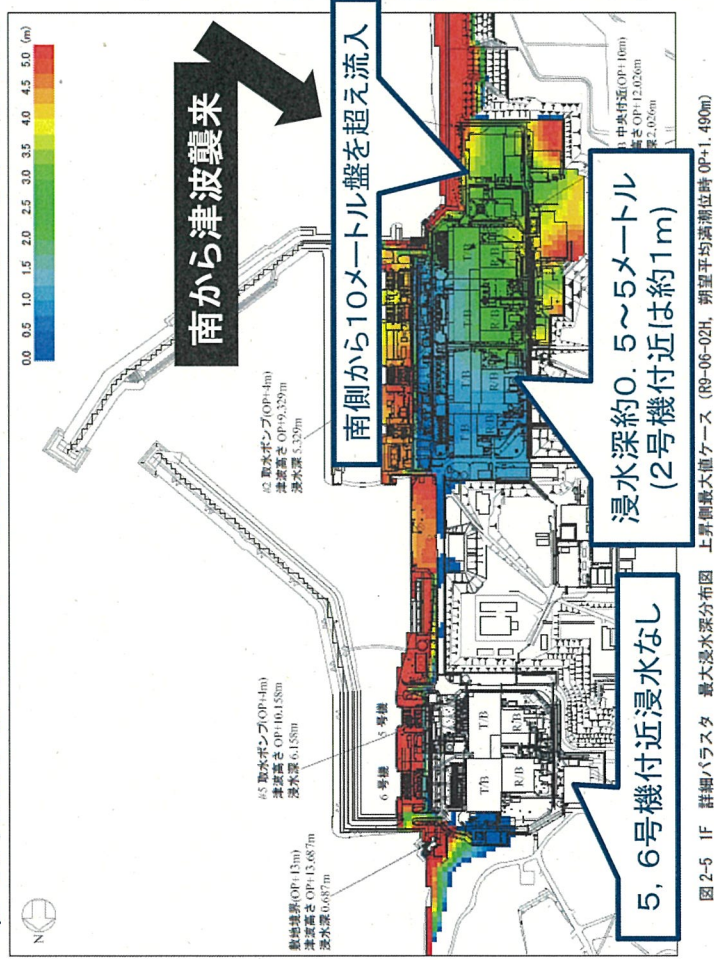


試算津波	本件津波
【断層長さ】	
210km	400km以上
【断層幅】	
50km	200km以上
【断層すべり量】	
9.7m	50m以上
8.3	【Mw】 9.0

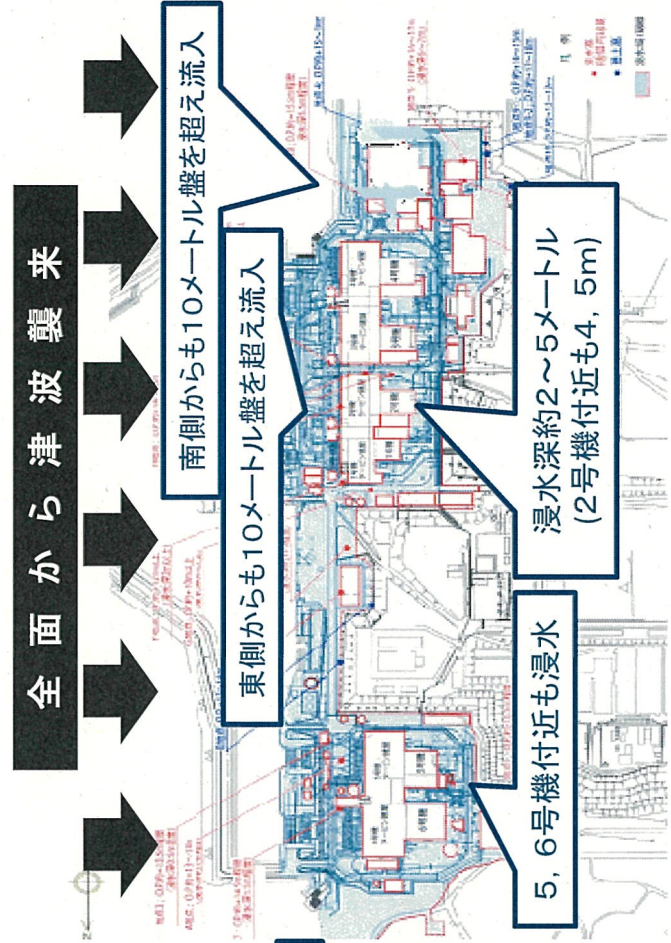


前提：
本件原発に襲来する津波の方向も規模も全く違う

「長期評価の知見」による試算津波



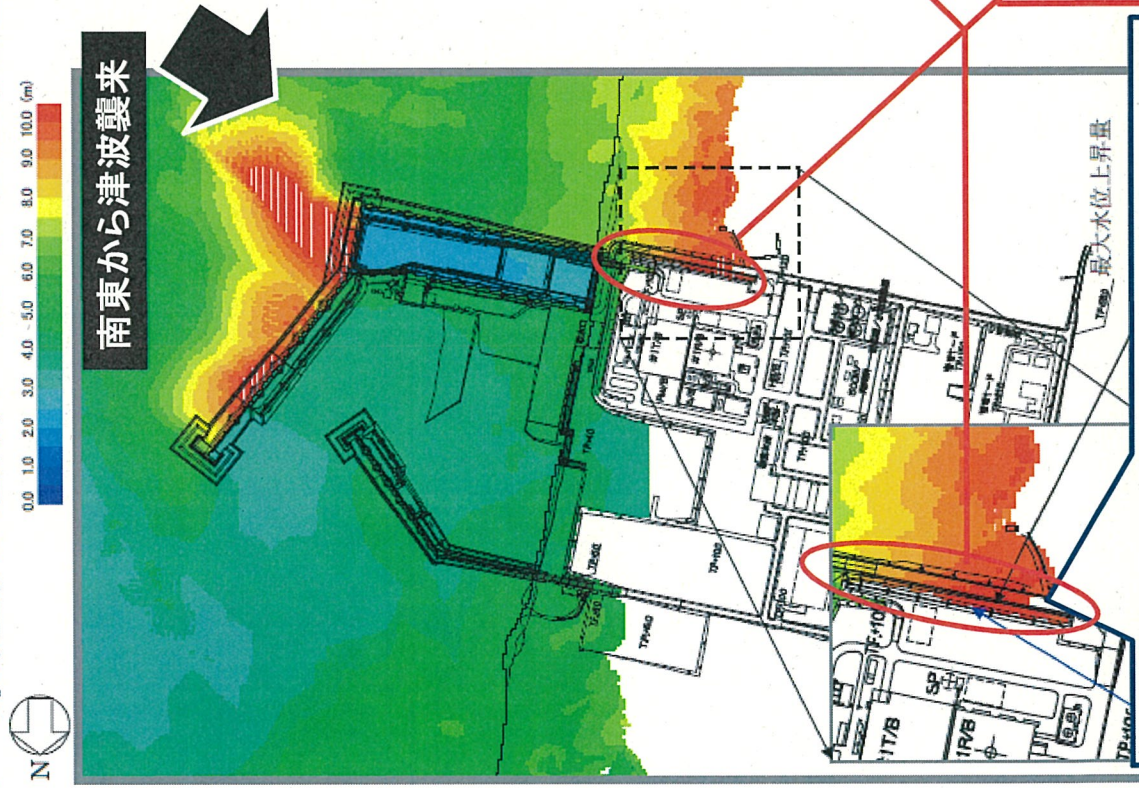
本件津波



2 本件事故前の工学的知見に照らして合理的に導き出される措置による
結果回避可能性

● 東通発電所における想定と津波対策

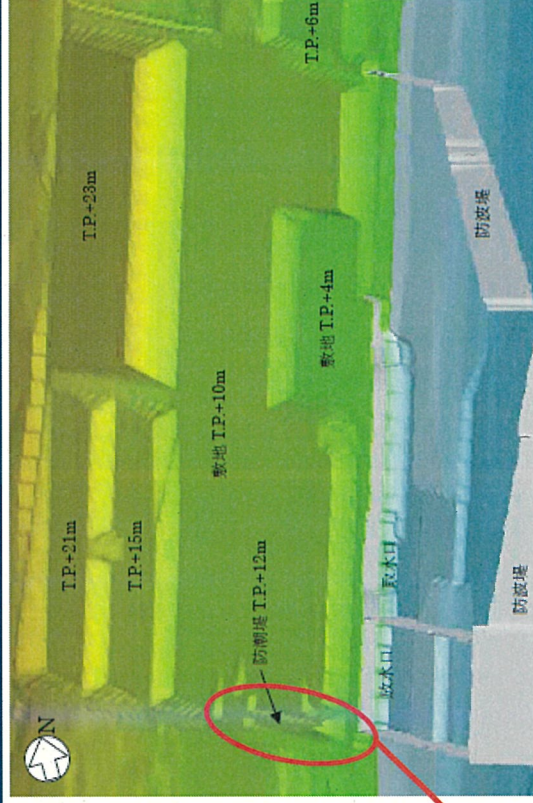
丙A第266号証8, 13, 14枚目より



敷地南側の波高は最大でT.P.+11.2m程度

津波評価技術を用い、三陸沖を波源域とする昭和
三陸地震(1933)の痕跡高を説明できる断層モデル
に慶長三陸地震(1611)のMw8.6を適用し、南東方向
から襲来する津波を想定津波として検討

敷地南側の最高水位が朔望平均満潮位
を考慮すると**T.P.+11.2m程度**で主要建
屋敷地高T.P.+10mを上回る



主要建屋敷地高を上回る波高が確認される敷
地南側にのみ高さT. P. +12mの防波堤を設
置し、ドライサイトを維持する津波対策を行う

乙A第35号証・11ページより
 甲A第59号証・15ページより

● 試算津波を基に鉛直壁を設定して波高を設定して波高を確認した上で、
 高い波高が予測される場所に防潮堤を設置して浸水防止

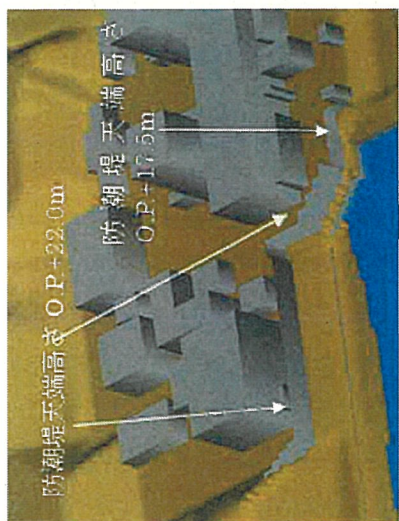
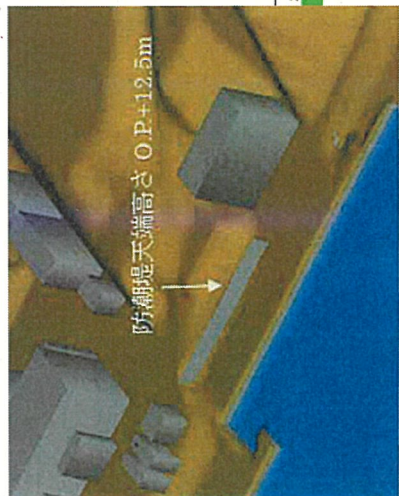


図 2-5 IF 詳細ハラスタ 最大浸水深分布 上昇側最大値ケース (R9-06-02H, 朔望平均満潮位時 OP+1.490m)

- 試算津波を基に鉛直壁を設定して波高を確認した上で、高い波高が予測される場所に防潮堤を設置して浸水防止

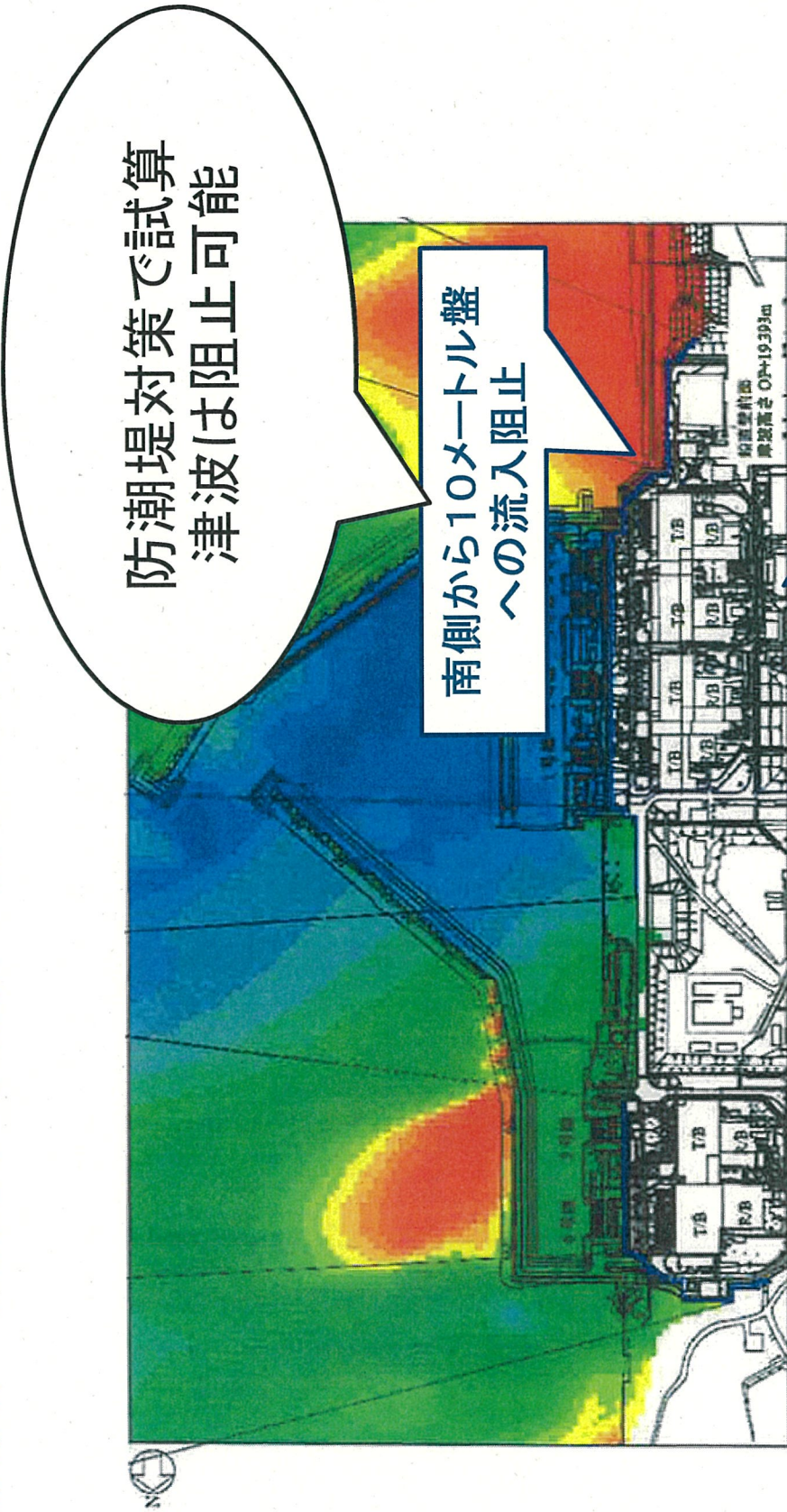


図-5 防潮堤を設置した場合の最大津波高さ分析
(R9-06-02H、朔望平均満潮位時 OP+1.490m)

- 試算津波を基に鉛直壁を設定して波高を確認した上で、高い波高が予測される場所に防潮堤を設置して浸水防止

